



謹
賀
新
年

平成二十六年一月

六甲山の子どもたち

六甲山が瀬戸内海国立公園に組み入れられた昭和 31 年から半世紀以上になる。猟師や木こりしか立ち入らなかった山に、神戸海岸通りの外国人居留地に住む人たちが、レクリエーションの対象として六甲山に登り始めたのは 100 年以上前のこと。山上に別荘村をつくり、わが国最初のゴルフ場を開設し、休日を楽しんだらしい。以後、関西の多くの人たちが六甲山に関わり、開発が進んでいったと聞く。

燃料にするために、はげ山にしてしまった山肌に植林を進め、100 年の時をかけて自然を取り戻してくれた先人の人々の努力に感

感謝せねばならない。

日本は国土の 66%が森林で、世界で 5 番目の占有率だという。資源の少ない我が国にとって、森林は世界に誇れる素晴らしい『森林資源大国』。生き物を育て、人の心を豊かにしてくれる森、ここに住む日本人は、世界でも有数の“心豊かに育つ国民”と言えそうだ。

IT 立国であることも大切だが、一日中携帯電話やスマホが手放せない子どもたちには育ててほしくない。神戸には身近に自然に触れることができる森が豊かにある。しっかり子どもの頃から親しんでもらいたい。六甲山は四季を通じて開校している教室なのだから。

(ひしのみ 132 号 写真と文 菅田 忠志)